



研究推進委員のメンバー・・・校長、教頭、研究主任、教務主任、学年主任

少人数指導研究体制・・・数学科：数学担当の3名の教員

英語科：英語担当の3名の教員

(2) 研究の実際

学校全体で取り組む学習環境づくりの実践研究

本校では、学力向上を図る研究を推進するうえで、学校づくり、すなわち学校全体で取り組む学習環境づくりには、次の意義があるとの仮説を立てて取り組んでいる。

ア、中学校は教科担任制であり、各教科の基礎の共通項と学力向上の問題を学校全体の課題とするためには、学習規律を含め学習環境づくりがそのポイントになる。

イ、少人数によるコース別の授業が効果を発揮するためには、生徒同士、教師間、教師と生徒の信頼関係が重要であり、少人数指導が成功するかどうかはその基盤づくりに大きく左右される。

ウ、生徒が意欲をもって学習に参加する集団づくりに取り組むことにより、学力の向上が図られる。また、少人数などの授業によりさらなる効果が期待できる。

そして、学習環境づくりでは、日常の全校的な取り組みとして具体的に、次の3つを実施し実践的な研究に努めている。

(その1) あいさつ運動の実施

毎朝、生徒が登校する10分間の朝のあいさつ運動をはじめとして、教員と生徒が一緒になって、学校をあげて「あいさつ」に取り組んでいる。お互いの人権(学習権を含む)を大切にする。明るく過ごしやすい学校、生徒の表情が良くなる、などを期待し取り組んでいる。

(その2) 全校読書

毎朝、10分間は全校読書の時間とし、全校が読書に集中する取組を行っている。静かで落ち着きのある朝のスタート、授業へ集中する生徒、学習に主体的に取り組む生徒集団になることなどを期待し取り組んでいる。

(その3) 全校体力づくり

毎日、授業終了後から放課後にかけて、全校体力づくりの時間とし、教師も生徒も一緒になって全校でランニングを行っている。学校に一体感や勢いができる、教師と生徒がふれ合う時間となり信頼関係がより強くなる、集中力や持続力、粘り強さができることなどを期待し取り組んでいる。

本校はここ数年、生徒が入学してから学年が進むにつれて段々と表情がよくなり、学習態度、生活態度も良くなり、学力も向上する傾向にある。その大きな要因は学校全体として取り組む学習環境づくりの成果によるところが大きいと考えている。

英語と数学の少人数によるコース別授業の実施

本校は本年度、普通学級は各学年とも2クラスである。英語と数学は、どの学年とも2クラスを3コースに分け少人数の授業を行うことを原則とし、研究を推進している。もちろん、コース分けでは、生徒の意向、保護者への事前の手立てを行い、実施の過程では生徒への意識調査や学力の定着状況も把握しながら研究を推進している。

(3) 研究の成果と課題

成 果

全校体制による学習環境づくり、少人数指導による授業の改善、補充指導など学力向上に向けて学校体制づくりに取り組んだ結果、全国標準学力テストの結果にもその成果がでてきた。

生徒と教師が協力して、あいさつ運動や全校読書や全校体力づくりに取り組み、生徒は真剣に授業に取り組むようになったし、生徒の表情、生徒と教師の信頼関係が構築されるなど、学力向上の基盤・環境が整ってきた。

全校による学習規律を含めた学習環境づくりにより、学力向上フロンティア事業を全教員の課題とすることができ、職員の意識が変わってきた。

定期的に研究授業を実施する中で、コース別の授業におけるきめ細かな指導や教材開発ができた。

課 題

学力向上に向けての学習環境、学校体制が整ってきたが、今後は学力向上に向けての授業改善の研究、学校の取り組み方の更なる研究が課題である。

(4) 研究成果の普及の方策

平成16年度には研究紀要を作成し研究発表会を開催する計画で、研究成果について教育関係者や保護者、地域に広く公表する。

県教育委員会の冊子などに掲載の要請があり、本校の取り組みを知っていただく。

小・中連携教育の一環として関係小学校へは説明し意見交換を図る。

県主催の学習指導講座で発表する機会を得て、県内の中学校に知ってもらった。

県内の中学校から校内研究での発表の要請があり提案と意見交換を行った。

学力向上推進協議会で発表する機会を得て提案できた。

(5) その他

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 レ15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 レ7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 レ少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 レ数学 理科
 レ外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 レ有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

英語と数学においての習熟度別学習を重視した少人数によるコース別の授業を導入している。全校体制による学習環境づくり、少人数指導による授業の改善、補充指導などに取り組んだ結果、全国標準学力テストの結果にも成果が出てきている。